

## C<sub>o</sub>とC<sub>i</sub>が同値である業種等区分の割合の推移

CODに係る第1次から第6次までの環境省のC値について、全業種等区分（備考を含む区分数：261）に占めるC<sub>o</sub>がC<sub>i</sub>と同値となっている業種等区分の割合の推移を整理した。

業種等区分は第6次のもを対象とし、過去の業種等区分が複数該当するものは、上限値はそのうちの最も大きな値を、下限値は最も小さな値を採用した。またC<sub>o</sub>とC<sub>i</sub>の比較は「上限のみ一致」と「上下限とも一致」の2つの方法で行った。

結果は下図のとおりであり、左側の「上限のみ一致」では第1次の36%から、第6次の東京湾、伊勢湾、大阪湾が65%、大阪湾を除く瀬戸内海が56%へと上昇している。

また右側の「上下限とも一致」では第1次の36%から第6次の東京湾、伊勢湾、大阪湾が64%、大阪湾を除く瀬戸内海が54%へと上昇している。

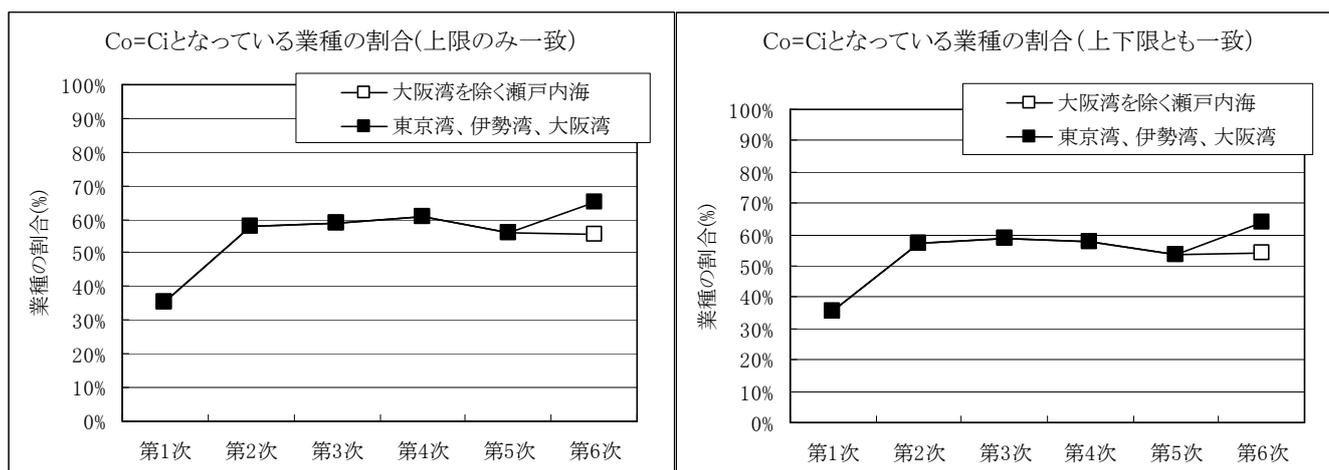


図 C<sub>o</sub>=C<sub>i</sub>となっている業種等区分の割合  
(左側：上限のみ一致、右側：上下限とも一致)

※参考表 CODに係るC値の適用期間

適用期間	1次	2次	3次	4次	5次	6次
～S55.6.30	C <sub>o</sub>	C <sub>o</sub>	C <sub>o</sub>	C <sub>o</sub>	C <sub>o</sub>	C <sub>o</sub>
S55.7.1～S62.6.30	C <sub>i</sub>	C <sub>i</sub>	C <sub>i</sub>	C <sub>i</sub>	C <sub>i</sub>	C <sub>i</sub>
S62.7.1～H3.6.30		C <sub>j</sub>				
H3.7.1～H8.8.31			C <sub>j</sub>	C <sub>j</sub> <sup>注</sup>		
H8.9.1～H14.9.30					C <sub>j</sub> <sup>注</sup>	C <sub>j</sub>
H14.10.1～						